平成 29 年度　園長だより NO.24　【H30.2.6】

ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（ 文責／園長 石川照代 ）

保育研究協議会を終えて

１月２７日（土）平成２９年度「保育研究協議会」が行われました。遠くは、韓国ソウルの日本人学校の園長先生が HP で探し当ててお見えになるなど、県の内外から１８５名もの参加がありました。この寒い時期、またインフルエンザが猛威を奮う中、多くの方に足を運んでいただけたことを本当に嬉しく思っております。

これも、ご来賓の皆様はじめ、アドバイザーの先生方、大学関係者、PTA 役員の方々、附中バスケ部の子どもたちなど、開催に当たってお力添え下さった皆様のお陰です。中でも保護者の皆様には、時節柄子どもたちの体調管理等に心を砕いて頂き、側面から多大なご支援を頂きました。心より御礼申し上げます。

さて、子どもたちは、いつものように寒さに負けず元気に遊ぶ姿を見せてくれました。一人でまたは友だちとじっくり遊ぶ姿は、私たちの求めている姿でした。講演会でも、掘越先生が子どもたちの遊ぶ姿を写真で紹介しながら、どう理解すれば良いか丁寧に解説して下さいました。特に、一見皆と遊んでいないように見える子や遊びが散漫に見える子にも、その子なりの思いや意図が隠されていることなどに気づかせていただき、今更ながらに子ども理解の難しさを再認識することができました。

来年度の研究協議会は、平成 31 年 1 月 26 日（土曜日）を予定しています。また、1 年間しっかりと研究を積み重ねて参ります。熱いご支援を宜しくお願いいたします。

けん玉のススメ（その２）

朝の登降指導が終わると、各保育室を覗いて回りますが、最近、年長さんの部屋に行くと、私を見つけるや否や、「えんちょー・えんちょー」と叫び声とともに飛び出してきて部屋に引きずり込まれます。「けん先（とめけん）ができたんで！見てて」「玉を回すと良く入るんで！」と一人一人が猛アピールしてきてそれはもう大変です！（でもうれしい！）それにしても、子どもたちの上達は早い早い！今にも追い越されてしまいそうです。（お家にも一本あると上達しますよ！大人にもフィットネスとしておすすめです！）

先日の大分合同新聞にあった「南春日けん玉教室」は、私が二十五年以上前、「競技けん玉」の指導について学んだ佐藤先生が主催している教室です。私はそれ以来、自分なりに工夫し、学級の実態によって、学級経営の「隠し球」としてけん玉を取り入れてきました。

競技けん玉には、級位・段位があり、個々の技能の上達とそれに伴う根気や集中力の向上が期待できます。が、それよりも重要なけん玉の良さは、子どもの「文化」として学級内に位置づけることができることです。技を教え合ったり、昇級を励まし合ったり、勝負で競い合ったり、子どもたちが自ら「けん玉大会」を企画・運営したりして、自分たちの力で楽しめる「遊び」として学級内に根付いていくのです。

更には、こんなエピソードがあります。けん玉にどっぷりとハマっていた私のクラスの６年生の男の子が、ある時ぽつりと言いました。「あんな、夜お母さんが仕事で居ない時に、一人で部屋に居るとな、なんか叫びたくなる時があるんや。そんな時けん玉をするとな、スッキリするんで。」この子をけん玉と出会わせられて、本当に良かったと思いました。

私がけん玉を好きなのはこんな理由からなのです。

「逃げる二月」何をする？

「逃げる！二月」がやってきました。今年度中に子どもたちが幼稚園に通えるのは、年長さんはわずかに二十四日。年中・年少さんが二十七日です。担任の先生方は今、子どもたちのこれまでの成長を見極め、残された日々の中で、どのような保育を行い、子どもたちの更なる成長につなげていくのかを一生懸命考えて進めています。

その切り札が、各学年学級毎の「お楽しみ会」でしょう。お家の方に見て頂くという場を設定することで、子どもたちには乗り越えるべき「壁」が自然に生まれます。壁の高さは子どもによって違いますが、乗り越えた時の成就感や達成感は等しく得られるものです。初めてのことに挑戦することや、人前に立つ恥ずかしさと闘うこと、失敗してもくじけないことなど、「お楽しみ会」への取組を通した子どもたちの成長は計り知れません。ですから本当に楽しみです。

二月は、年少・年中さんは、面談もあるようです。進級に向けての課題などをしっかり担任と共通理解して、スモールステップで取り組んでいくとよいですね。お願いします。